

普及だより

令和5年2月 Vol.

114

# くにみ

発行：伊万里農林事務所

西松浦農業振興センター

TEL(0955)23-5128 FAX(0955)23-5138

nishimatsuurafukyuu@pref.saga.lg.jp

## NEWS TOPICS

### 「農業女子交流会」で 新たなネットワーク作り



▲農業女子交流会



▶いちご女子交流会

令和4年11月30日に、伊万里・有田地区の女性農業者を対象とした交流会を開催しました。女性農業者、JA女性理事、女性農業委員等から構成される農業女子ネットワーク企画会議で話し合い、企画した交流会には、26名の参加がありました。「SNSを活用した情報発信」について佐賀県よる支援拠点 今里暁子氏を講師として招き、商品のPR方法、上手な写真の見せ方・撮り方、魅力あるSNS活用事例について学び、積極的な質問がなされました。交流会終了後には、連絡先を交換するなど和気あいあいとした雰囲気での仲間の輪も広がりました。

また、10月7日に昨年引き続き2回目となる「いちご女子交流会」を開催しました。イチゴ栽培の女性農業者6名と関係機関が参加し、有田町で現地研修と「知的財産」について座学研修を行いました。「忙しい時期は余裕がなくなるが、仲間も頑張っていると分かったら自分も頑張れる気がする。つながりができてよかった。」という声も聞かれました。

会を重ねるごとに、新たな出会いや交流が生まれ、女性農業者同士のネットワークが広がっています。今後も女性農業者同士の交流の機会が増えるよう支援していきます。





優秀賞

前田 清馬 (伊万里市大川内町)

清馬氏は昭和35年に就農し61年の長きにわたる、伊万里市の中山間地域を中心に営農されています。近年は、後継者である孫の恭兵氏と共同で農作業を行っており、後継者育成にも力を入れておられます。麦作では、散播や堆肥の施用に積極的に取り組み収量・品質の安定化を図っています。また、水稲の病害虫防除においては、ドローンによる防除を行うなど、作業の省力化にも取り組まれています。今年度からは新規品目としてブロッコリーの栽培にもチャレンジされており、水稲・麦と露地野菜を組み合わせた、高収益な農業経営を目指されています。

近年は、後継者である孫の恭兵氏と共同で農作業を行っており、後継者育成にも力を入れておられます。今後は、後継者が中心となり中山間地における露地野菜のさらなる導入が期待されます。



優秀賞

前田 拓也 (伊万里市南波多町)

前田氏は、生産コストが上昇する中でも高い生産性で安定した経営を実現されている若手肥育牛農家です。就農時から優良な肥育素牛を選ぶ目を養われ、肥育技術を磨かれており、現在までに数々の枝肉共励会で入賞を果たされ、管内トップクラスの枝肉成績を収めています。

日頃からICT機器を活用し、徹底した観察により牛の死廃事故を防いでいる他、耕畜連携による自給飼料生産を行い、生産コストを抑え、収益性の高い模範的経営を達成されています。その他、地域との連携が持続的な経営に重要であるとの想いから、積極的な地域社会貢献に取り組まれており、今後も佐賀県の畜産発展に欠かせない若き経営者として活躍が期待されます。



優秀賞

平島 佳子・三夫 (伊万里市東山代町)

平島氏は、中山間地である東山代町川内野で茶と大根を、標高差を活かして出荷時期を分散し規模拡大されてきました。機械化による省力化を図り、今の労力でも規模拡大ができる環境づくりを実践されています。

さらに、生産した茶は、直売所での試飲販売やマルシェ等により、お客様と直接顔を合わせて販売すること、販売価格の安定した個人販売を伸ばし、ファンの獲得に繋がっています。

また、地区や県段階の女性農業者グループでも、ネットワークを広げ、若手女性との交流も積極的に行われるなど次代を担う若手の育成にも積極的に取り組まれており、これからのさらなる活躍が期待されます。



# 佐賀農業賞受賞

地域農業を牽引する農業者の皆様

## 集落内で話し合おう

令和4年11月7日に、JA伊万里にて集落営農リーダー研修会を開催しました。

研修会の前半では、神崎市千代田町の農事組合法人小鹿ファームの馬場豊輝代表理事を迎え、「集落の担い手の確保と農地維持のために」と題して、キヤベツ等の高収益作物の栽培や集落内の非農家も一緒に取り組んでいる6次産業化など集落の多様な担い手の確保、育成に繋がる事例紹介をしていただき、参加者からは「ここに生まれて良かったと思ってもらえる田舎



▲講演の様子



▲ワークショップの報告

づくりをせんばね」という声が聞かれました。

研修会の後半は集落ごとに各参加者と関係機関でワークショップを行いました。集落ごとにテーマを設け、集落の後継者の確保、育成や集落での園芸品目の栽培、鳥獣被害対策などについて様々な意見が出されました。

今後はワークショップで出たアイデアを基に各集落で話し合いが行われるような盛り上がりが見られることを期待します。



## 新たな担い手の確保に向けて

### 生産者と関係機関で一緒に取り組んでいきましよう

農業者の高齢化や後継者不足が進む中、新たな担い手の確保・育成は全国的な課題となつています。管内では、就農セミナーの開催や、個人や集落での研修生受け入れ等、新規就農者確保の取り組みや就農へ向けての支援が行われています。

今回、就農希望者の研修受入れや地域の農業振興に向けた取り組み事例を学ぶため、JA伊万里、伊万里市、伊万里農林事務所、西松浦農業振興センターで、(信州)うただファームへの視察研修を行いました。他の産地も含め、先進的に取り組まれている内容を参考にしながら、今後も取り組みを進めていくこととしています。

担い手の確保・育成は、行政やJAだけでなく、生産者の皆さんと一緒に考えて取り組んでいく必要があります。自分の農地をどうしたいのか、まずは、「家族の中で話し合ってみませんか？」

## 露地野菜 チャレンジ実証事業について

さが園芸888運動にむけた新たな露地野菜の産地づくりの促進を目的に、今年度から露地野菜チャレンジ実証事業が開始されました。

西松浦地区では、伊万里市のモデル農家の若手生産者の2名がブロッコリーの栽培に取り組んでおり、機械定植の実証や作型の検討を行っています。今年度は30a作付けを行い次年度以降は、面積拡大を行い、3年目には1haを目指してブロッコリーなどの露地野菜を地域全体へ規模拡大を目指します。





# 伊万里実業高校への出前授業

## 農業の先輩から実体験を聴く

伊万里実業高校農林キャンパスの高校生を対象とした「出前授業」は今年で5年目となりました。佐賀県農業士や地域で活躍する農業者の協力を得て開催しています。

今年度は、果樹の授業を中山農業士の果樹園で開催しました。生徒がナシやモモの樹を見ながら農業士の体験に基づいた話を熱心に聞き入っていました。野菜の授業では、J A伊万里のいちご部会 原部会長のいちごハウスを見学し、生徒一人一人の質問に丁寧に答えてもらいました。また、農業経営の授業では、坂本農業士が農林キャンパスに出向き「仲間と歩んだキュウリ栽培」と題して話をされ、「出前授業」

は生徒が農業の先輩から経験に基づいた貴重な話を聞く機会となっています。



▲中山農業士の果樹園



▲原部会長のいちごハウス



▲坂本農業士の授業風景



山口将樹氏 (南波多)

私は現在、伊万里市南波多町で梨を約1・0ha栽培しています。

伊万里農林高等学校を卒業後、一般企業で7年間勤務しました。その後、2年間のみ農業をする予定でしたが、自ら育てた梨を前職の先輩に贈った際、とても絶賛されたことから、農業に魅力を感じるようになり4年前に就農を決定しました。

現在は、「伊万里4Hクラブ」や「さが農業経営塾」で農業経営に関する勉強を積極的に行っています。

今後は、経営分析を基に時代のニーズに合わせた経営を目指していきたいと考えています。また、産地の問題として年々遊休園地が増加している中で、他品目との複合経営にも積極的にチャレンジして自らの経営発展と産地の活性化に貢献できよう尽力します！

SAGA2024 イメージソング

# Batons

～キミの夢が叶う時～

佐賀県出身のアーティストがつどい、  
みんなの思いが詰まったイメージソングができました！

# SAGA 2024

国スポ・全障スポ  
新しい大会へ。  
すべての人に、スポーツのチカラを。

SAGA2024イメージソング「Batons～キミの夢が叶う時～」が完成しました！詳しくはこちら▶